

◆実践問題37◆

近き頃、伊勢国に、ある山中に、柴の庵を結び

て、

尼のやせ衰へて、顔よりはじめて手足まこと

に汚き尼の、涙を流して念仏する侍り。「深く思ひ

入れらむ人とは見ゆれども、あまりに顔よりはじ

めて汚くおはするはいかに。さまであらじはや

と人々言ひければ、「さらなり。さぞ汚くおぼすら

む。されど思ひ給ふるは、女身などはさまもな

だらかならば、そぞろなることを言ひて、本意な

らぬことも侍るべし。さればわざと身をやつすに

侍り」と言ひけり。

ある時、尼の言ふやう、「ちと人にも知られで、

避りがたき人の来たりて、庵のありさまをも見む

1回目
2回目
3回目
4回目
5回目

と申せば、入れ聞こえむと思ひて侍り。いま五日

はゆめゆめ誰々もさしな入り給ひそ」と言ひけれ

ば「さればこそ。女は心憂きものにてありけるぞ。

後世の者と思ひたれば、去やらむ人にも知られ

で入るべき人のありといふことよ」とて、あさみ

あへり。しかれども、約束のままに五日は行きも

せず。四日までは念仏の聞こえけれども、五日の

暁より念仏の声絶えければ、人々あやしみて行き

て見るに、西に向きて手をあはせて、ひき入りに

けり。日ごろの本意のごとく、まことの往生を遂

げてけり。